

徳島大学の教育力

魅力ある授業

楽しい授業、面白い授業、ユニークな授業、等々。講師は様々な工夫をこらしながら講義を進めています。今回の特集では、そんな「魅力ある授業」をめざしてがんばっておられる先生方の取り組みを紹介します。またこの特集は次号より、新たなシリーズ記事となり、毎回一人ずつ紹介していく予定です。ご期待ください。

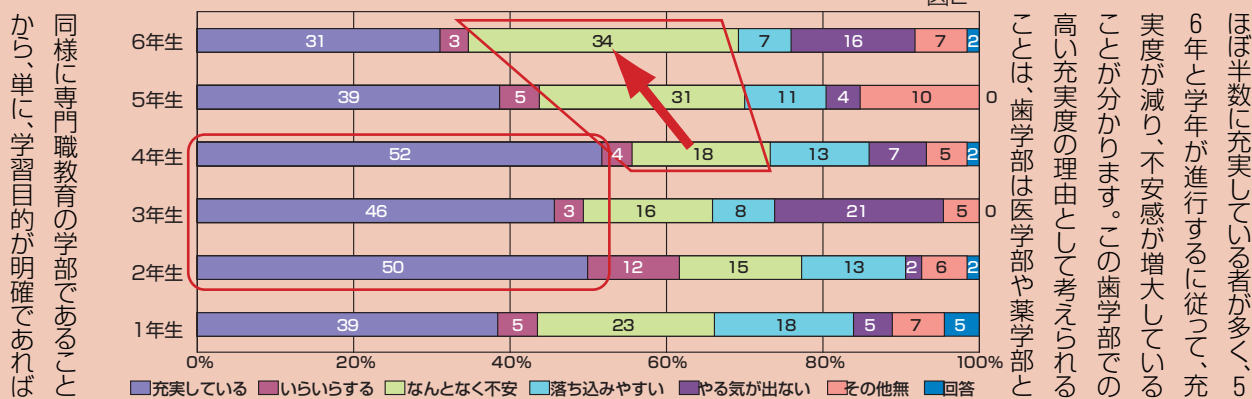
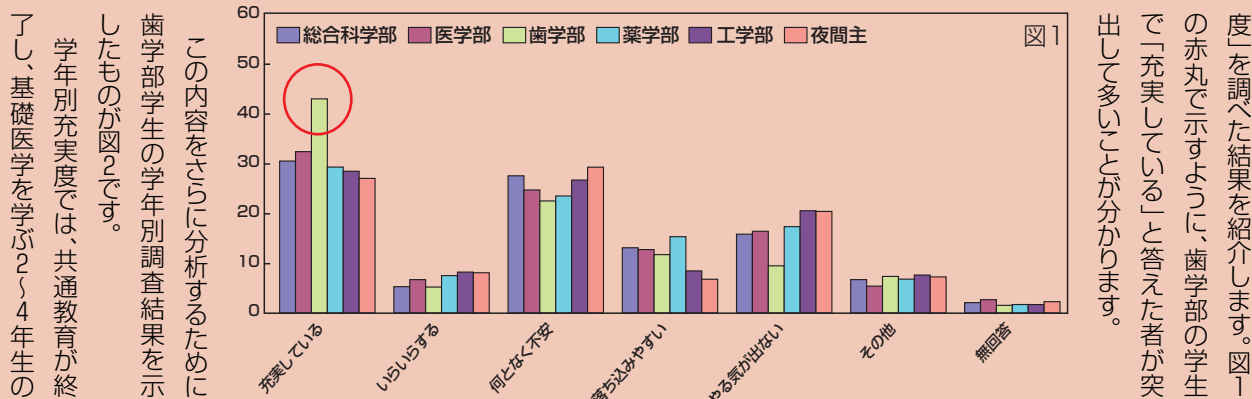
学生生活実態調査から見えるもの

学生支援センター 学生生活実態調査室長
野間 隆文 のまたかふみ



第22回の学生生活実態調査を平成16年12月に学生諸君のご協力により実施できました。学部学生全員の5904名を対象にし、4278名(約71%)から回答を得ました。調査結果から、「徳島大学の教育力」を検証してみたいと思います。

まず、学生の「授業への出席状況」ですが、ほとんどすべての授業に出席している学生の割合は全学的に約84%で、学部間で差がありません。「授業の満足度」についての質問に対しては、「満足」と「やや満足」の合計は全学的に約38%です。一方、「やや不満足」と「不満足」の合計は約22%で、5人に1人が不満を持っていることが分かりました。この満足度についても学部間で差がありません。つまり、表面的には、大学教育の満足度の程度は全学的に同じです。



ほぼ半数に充実している者が多く、5、6年と学年が進行するに従って、充実度が減り、不安感が増大していることが分かります。この歯学部での高い充実度の理由として考えられることは、歯学部は医学部や薬学部と同様に専門職教育の学部であることから、単に、学習目的が明確であれば、精神的にも充実するといつものではないようです。歯学部での学生生活の中に何か隠れたポイントがありそうです。2～4年生を指導している教員の方々が「魅力ある授業」を行っている結果であることも十分考えられます。授業は教員と学生の双方で成立させていきますので、この辺も学生生活の充実度上昇の要因になりそうです。

「取材」 コミュニケーションのある授業を大切に

大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
薬物動態学分野
石田 竜弘 いしだ たつひろ

徳大を卒業後、カナダのアルバータ大学への留学を経て、2000年に母校の講師、03年からは助教教授になった石田先生。今年で6年目になりますが、

「若いから二所懸命。教員というよりOBが先輩といった気持ちでがんばっています。」

石田先生の授業の特徴は「リアクションペーパー」です。「他学部の先生が使われているのを参考にさせて頂きました。リアクションペーパーはアンケートや講義での質問などに使います。個人的な質問にはメールで答えたり、みんなに関係があるような内容だと次の授業に反映させていきます。」

また「ビデオやプロジェクターを使用して、イメージをぶくらませることで講義の内容を理解しやすく工夫しています。」



「自分が現役時代に受けた授業のことも思い出して、生徒の気持ちになっ生かすようにしています。講義は毎日あるわけではありません。その中で内容を継続していくことが、学生さんにも教える側にもいかに大変かということもわかりました。」

「自分が現役時代に受けた授業のことも思い出して、生徒の気持ちになっ生かすようにしています。講義は毎日あるわけではありません。その中で内容を継続していくことが、学生さんにも教える側にもいかに大変かということもわかりました。」

「自分が現役時代に受けた授業のことも思い出して、生徒の気持ちになっ生かすようにしています。講義は毎日あるわけではありません。その中で内容を継続していくことが、学生さんにも教える側にもいかに大変かということもわかりました。」

「自分が現役時代に受けた授業のことも思い出して、生徒の気持ちになっ生かすようにしています。講義は毎日あるわけではありません。その中で内容を継続していくことが、学生さんにも教える側にもいかに大変かということもわかりました。」

受講生のコメント
「石田先生の講義は非常に分かりやすく、楽しく受講しています。先生はあらかじめ講義内容をノートにまとめられており体系的に板書して下さいます。講義の後に質問用紙(リアクションペーパー)を受け取って、それについてきちんと回答してくださるのは素晴らしい事だと思いました。」



ひよこしたら NASAへ行けるかも？

大学院ヘルスイオサイエンス研究部
生体栄養学分野

二川 健 にかわたくし

高校時代から先生が医者になるのが夢だったという、しかし医者にはならず研究の道を選んだ変わり者、という二川先生。今は先生として講義が楽しくてしかたがないそうです。

「栄養学科の生徒はみんなまじめで講義のし甲斐があります。反応も良く、その分手が抜けません」と、生徒たちを手放してほめる二川先生は、本学卒業後に1年間の内科での臨床経験があります。

「医学科だけでなく、栄養学の重要さやレベルの高さがわからなかったかもしれない。内科での経験を生かして、医者と管理栄養士が一体になれるように橋渡しをしたいと思っています。」

授業では手作りのプリントを配ったり、出来るだけホワイトボードを使って生徒にノートをとらせる方法を大事にしています。また実習では10人単位の班に分け、マンツーマンに近い授業を進めています。

「栄養学は今、注目の分野です。です

から熱心な生徒が多く、おたがいに仲良くしながら切磋琢磨しています。先生方も、みんなで学生を育てようという雰囲気があります。」

二川先生も学生と接する時間をできるだけ作るようにしています。時には強くないけど、一緒に飲んだり、進路相談にも応じます。

二川先生の現在の大きな目標が、徳大に宇宙栄養学の研究所を作ることです。ここで新しい宇宙食を開発することが夢です。アメリカでもロシアでもなく、日本で宇宙食の研究というのは不思議な話かもしれませんが、宇宙食の研究をしているところはまだ世界にも少なく、またJAXA(宇宙航空研究開発機構)では宇宙研究のテーマ別の拠点をさがしているそうです。

「NASAに行く」といって学生に期待をさせていますが、いつ行けますやら(笑)。でもマスターの学生は国際学会に連れて行っていきますし、時期が合えば必ず彼(女)と一緒にNASAに行きますよ。」

固い授業をやわらかく わかりやすく

工学部建設工学科

橋本 親典 はしもと ちかおのり

個人の専門講義科目として意図は、「鉄筋コンクリート力学」「コンクリート工学」、夜間は「鉄筋コンクリート力学」「コンクリート施工法」、さらに専門共通の演習科目として「建設基礎解析演習」「プロジェクト演習」と多忙な橋本先生。

82年に九州工業大学を卒業後、長岡技術科学大学(助手)、群馬大学建設工学科(講師、助教)を経て97年に徳島大学の助教として就任しました。

「コンクリートに関する講義は実験・実習より先行して開講するため、難しくおもしろくないというイメージがあります。そのためにビデオやプロジェクトなどの視聴覚を利用して、興味を持ちやすいように工夫します。」

特に、コンクリートの圧縮強度コンテストを行った某テレビ番組は、コンクリートの原理をおもしろく一般の人でもわかりやすく制作されており、そのビデオを見せると、学生たちはとても興味を持ちます。「授業の最初に、その日の目標、目的を言っ

ています。テストやレポートはやりっぱなしにならないよう、学生が納得できるように、評価をつけて返し、結果をきちんと見せるようにしています。」

近年、コンクリート構造物の劣化による事故が多発して、コンクリートは身近な話題にあがることが多くなりました。そのような時代を反映して、コンクリート診断士の資格を持つことが職歴にも有利になっています。またまだこの資格を持つ人は少ないのが現状ですが、橋本先生自身資格を有し、その経験を生かして学生へのアドバイスをしています。

「小テストや中間・期末試験など、実際の資格試験からの問題を出したりします。資格試験には実務経験も必要ですから、卒業後のアドバイスもします。将来への目標を持ってほしいですね。」

「コンクリートの話して、ちょっと取っつきにくい気がしていましたが、ビデオやプロジェクトなどを使って進めてくたさるのわかりやすいです。先生のコンクリート診断士としての話やテストに実際の資格試験の問題を出してくれるのはとても参考になります。テストにもそれぞれ評価をつけてくだ



受講生のコメント

「板書を中心に意欲的に授業を進めていく二川先生は迫力がありま



4.8 硬化コンクリートのひび割れ

- 許容ひび割れ幅 W_a
かぶりの関数とし、環境条件と鋼材の種類で異なる。設計ひび割れ幅は、鋼材の応力と設計断面から求められる。
- 発生原因と分類(表4.6, 図4.27)
対策方法 温度ひび割れの発生機構
ひび割れ指数導入、予測技術確立
- 鋼材腐食陽極(アノード)と陰極(カソード)の発生(p.95)
腐食した鉄筋は体積がもとの約2.5倍に膨張し、この膨張によってかぶりコンクリートにひび割れが発生。
塩分が供給されると、進行が促進される → 塩害